



【与える者が幸いです。】

聖書;ルカの福音書6章27-38節 / 暗唱成句;ルカの福音書6章38節

説教者:鄭南哲牧師
(Rev.Jung nam-chul)

愛する信仰の家族のみなさん! 相変わらず蒸し暑かった一週間お元気で、平安でしたか。子供たちもう夏休みが始まりました。この7月にもみな霊肉とともに守られ、恵まれ、祝福されますように切にお祈り申し上げます。

罪人の特徴と言えば神様に従おうとするより、自己中心的に生きようとします。哲学者ソクラテスは“汝、自らを知れ”といいました。現代心理学者たちは“たまたま、自分を主張する”ように教えています。芸術家たちは“自分の感覚に従い、自分を愛する”ように進めます。政治家たちは“自分をもっとピアル(隠すところはうまく隠し、自分の良いところを宣伝)する”ように言われています。教育者たちは“自分を目覚めさせ、もっと覚醒させるよう”に教えてくれます。ヒューマニストたちは“自分を信じなさい!”と言います。こう言った内容自体が決して間違っているわけではありませんが、その共通点と言えば、自分自身についての執着が強いということです。

ところが、イエスキリストの主張は聖書ではちょっと違います。聖書では“わたしについて来たい者は自分を捨てて、自分の十字架を背負って、私について来なさい。(マタイ16:24)”そして、今日の本文では自分のため受けるより他の人たちに与える者が幸いですと教えて下さっています(使徒の働き20:35)。

我々は先週までマタイの福音書5章に書かれているイエスキリストが教えて下さった山上での8つの祝福について聞きました。主の御前で悲しんでいる者に与えられる主の慰め、与えられる哀れみ、満ち足りた恵み、キリストを信じ、救われ天国を所有した者たちがこらから具体的に実践のためどのように生きるべきなのかマタイの福音書5章38-48節で続いて教えて下さっています。

今日の本文ルカの福音書6章27節から38節までの内容もマタイの福音書5章と同じように祝福されたクリスチャンたちがどのように生きればこの地上でもさらに祝福された生活ができるかを教えて下さっています。その中で今日の本文の38節がすべての先の話をもとめられた結論的な内容だと言えます。

クリスチャンとして主にあつて豊かな人生を送るため、イエス様は結論的にこう言われました。

“与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々は量りをよくして、押しつけ、揺すりいれ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返してもらうからです。”

信徒のみなさん、今日の御言葉は私たちがキリストにあつて豊かな人生を送るため、私たちが与える者として生きることを主は願っておられることを示してくださっています。もちろん、受けることも大きな神様の祝福であり、必要です。愛を受けたことがある者が他の人に愛を表し、与えることができることを覚えると、分け与えられる人、その人生がただ受けるばかりの人より大きな祝福をであり、価値ある人生ではないでしょうか。

1. 私たちは与える生活をしなければなりません。

主の慰めを経験された人々、主の哀れみを受けた人々、主の満ちしを経験された人々、イエスキリストを信じ、常に主の御言葉通りに生きようとして天国を所有した者たちは、主がこういったすべてを自分に与えて下さったようにあなたも与えなさい! 与える者になりなさいと命じられているのです。

今日の御言葉に「与えなさい」という言葉は命令形として「困っている人々の救済のため供給するあらゆる物を与えなさい。」という意味です。そして「受けることを願う前にまず施す人になりなさい。」という意味も含まれています。今日の御言葉は愛の具体的な行為について語っています。人類歴史上一番与える生涯を送った方はまさにイエスキリストです。

みなさんもよくご存知のヨハネの福音書3章16節によると、「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

今日の本文の「与える(デイドミ)」という言葉はさきほど読んだ「そのひとり子をお与えになった。」という言葉にも一緒に使われてきました。イエス様の生涯自体が与える人生でした。イエス様も「受けるよりも与えるほうが幸いです。(使徒の働き20:35)」と言われました。

信仰の兄弟、姉妹のみなさん!

イスラエルの死海(しがい)は生き物が住んでいない死んだ海であつて、ガリラヤは命の湖です。

なぜ死海が死の海になったのでしょうか。死海は水が入ってくるだけで、流れて行かないからです。つまり受けるばかりで流さないからです。わしづかみにしていると魚たちでさえ生きれず、塩分だけが重なって結局高い塩海である死の海になってしまうという教訓を自然を通してでも神様は私たちに教えてくださっています。しかし、ガリラヤの湖は違います。

透明できれいな水で、豊かです。その中にはたくさんの魚がいて、その周りがある木でさえ美しいです。どうしてですか。単純な原則です。水がたまっているのではなく続けて流れていくからです。ヨルダン川をとおして自分の水を流しているからです。

愛するみなさん!この世は与えたら自分の損であって、自分の分がなくなってしまうのだと感ずきます。しかし聖書は逆に与えなさい!与えれば豊かにされるとイエス様は言われます。与えれば生きるけれども、与えずに自分の中でずっとたまっていると健康もなく早く死んでしまうということです。信仰によって、ただ神様の恵みによって救われた神様の民は分け与える人生を送るべきだと言われます。イエス様は私たちに与えなさいと言われながらそこになんの条件も付け加えませんでした。神様の民であるクリスチャンは与えることを人生の目標として生きるべきです。

みなさん。人はもてなされたがっているし、愛されたがっているし、ほめられたがります。

多くの人々がそのように思っているが生きるためこの世には満足も、感謝も、幸せだと思っている人があまりいないのは当然だと思います。

神様は私たちみなを幸せで豊かな人生を過ごすことを願っておられます。神様はいつも受けることを願い、それに慣れてしまう人生より、物であっても、心であっても与える人が成功し、与える人こそ祝福された道に歩み、奇跡を経験されると言われます。キリストの信仰の一言で言わせるなら、それは与える信仰だと私は信じております。

<与えて下さる三位一体の神様>

神様は私たちに天地万物を創ってくださり、罪人である私たちを愛したゆえに、ひとり子を与えてくださったし、日々、私たちに良いもので食べさせ、着せてくださり、養ってくださる我々の牧者です。イエスキリストはこの地に来られ、私たちのためにいのちまで与え、我々の罪を赦して下さって救い出してください、神様の子供とさせるために一滴(ひとしずく)の血でさえ惜まずに、与えてくださいました。聖霊様も我々のためにたえず、とりなししてください、導いてくださり、愛してください、慰めてくださり、知恵と勇気を与えてくださる方です。このように三位(さんみ)の神様は我々にたえず与えてくださるお方です。御国でさえ我々に与えられているため永遠に変わりなく、神様の愛は世々に至ります。

すると、私たちはだれに与えるべきでしょうか。‘誰にでも与えなさい’と聖書は言われます。いつ与えるべきですか。

いつでも与えるべきです。どうしてある時だけ与え、ない時には与えないようにするのでしょうか。すべてを目に見える物質で与えるべきだと勘違いしているからではないでしょうか。

使徒の働き3章をみると、イエス様の弟子であったペテロとヨハネが祈るために宮にのぼっていました。ところが、宮の周辺には生まれつきの足のきかない男が施しを求めていました。彼はなにか施しを求めながらペテロとヨハネを見つめていました。そのときペテロはなんと仰いましたか。

使徒の働き3章 6節【すると、ペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエスキリストの名によって、歩きなさい。」と仰いました。】

ペテロが言ったとき彼はたちまちまっすぐに立ちました。まさに奇跡が起こりました。彼は歩き出し、はねたりしながら神様を賛美し、神様に栄光をかえました。いつでも与えようとする心があるところには豊かな奇跡が起こります。

ユダヤ人たちの間で、言われてきている話の中でミドラシという話があります。

モーセが死ぬ前に救済について民たちにこのように教えます。“あなたがたが救済をよくすればのちには豊かになって、お金を借りに行く人もなくなってくるはずだ。”すると民の一人が“そしたら、自分の所得のいくらを救済すればいいのでしょうか。”“10分の1なら十分でしょうか。”もし私に救済するお金がないのに、またきたら手ぶらで帰してもよろしいでしょうか。”このときモーセはこう言ったそうです。“お金がないなら助けが必要な人に親切を与えてください。これはお金よりもっと大きいものを与えることになります。”

イエス様を信じているクリスチャンなら自分中心から他人中心に考えが変わらなければなりません。いつも感謝する心をもって奉仕し、あせを流しながら仕える時、人生に対するまことの感謝と平安が訪れます。神様は神様と隣人に献身し、慕い求める信徒たちの器を神様の愛と祝福で満たし、感謝の日々にさせてくださると信じます。

2. 与える者にあふれるほどの祝福が与えられます。

今日の本文に戻って、ご一緒にもう一度読んでみましょうか。

「与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々は量りをよくして、押しつけ、揺すりいれ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返してもらうからです。」(ルカの福音書6:38)

つまり、神様は与える人によいもので報いてくださるという御言葉です。私たちの神様には負い目になさることは決してありません。かならず、神様は報いてくださいます。ですから私たちが善を行って、ほかの人を助けてもてなしてあげたのに‘何、お礼の一言もない’と怒る何の必要もありません。なぜなら神様はかならず報いてくださるからです。

“人々は量りをよくして、押しつけ、揺すりいれ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。”という御言葉は神様の豊かな約束です。“量りをよくして(メロンカルロン:よい分量)”という意味は“ふさわしい分量で与えられる”という

意味です。ですからこの箇所の意味は**自分にできるだけ多く最大限与えられる**という意味です。

クリスチャンレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！なぜ与えることが祝福なのでしょう。

おさない子供たちであればあるほど自分が受けようとするばかりです。しかし、こどもたちが徐々に大きくなり、成熟すると与えることを学びその価値を知ることになるように同じではないでしょうか。信仰にも段階があります。まだ未熟な子供のような信仰を持っている時は自分が受ける祝福、認められることだけ祈り、願い、考えます。周りがどうであっても、どうなっても重要じゃありません。しかし、イエスキリストのまことの慰め、御恵み、愛を経験すればするほどそのようなクリスチャンは神様が、イエスキリストがそうなされたように似てるように自分も与える者になって行きます。聖書ではそのような人が成熟されたクリスチャンであり、まことに祝福された者であると教えて下さっています。

聖書はこう語っています。(マルコの福音書9:41)「あなたがたがキリストの弟子だからというので、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれる人は、決して報いを失うことはありません。これは確かなことです。」「善を行うのに飽いてはいけません。失望せずにいれば、時期がきて、刈り取ることになります。」「(ガラテヤ人への手紙6:9)

神様はかならずすべて報いてくださいます。そして「与えなさい。そうすればあなたがたに与えられる。」と言われました。私たちの神様はけっして負債を負うお方ではありません。

自分のものを喜んで分け与えるとき神様も私たちに与えてくださいます。

「この人は散らして、貧しい人々に与えた。その義は永遠にとどまる。」(第二コリント人への手紙9:9)と書いてあるとおりです。詩篇112篇9節にも、「彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。彼の義は永遠に堅く立つ。その角は栄光のうちに高く上げられる。」

「蔭く人に種と食べるパンを備えてくださる方は、あなたがたにも蔭く種を備え、それをふやし、あなたがたの義の実を増し加えてくださいます。(コリント人への手紙第二9:10)」

特に神様は貧しい人、特に困難な環境におかれている人々を覚え、彼らの必要を供給する人々を愛しておられます。礼拝を通して、神様の御前で充実に奉仕し、仕えなければなりません。そのとき神様はさらに感謝をささげられるように導いて くださいます。

愛する兄弟、姉妹のみなさん!感謝することがあれば、さっそく感謝してください。時間が経てば、その心は変わってしまいます。はじめに決心したとおりに感謝してください。神様の御前で感謝献金をしようとしたことさえも時間がたてば、私たちは神様と取引しようとしてしまいます。助けを必要としている人を助けたいという心が生じたときにはさっそく助けてあげてください。

フランス宗教改革者であり、神学者として尊敬されたカルベン(John Calvin,1509-1564)はこう言われました。“低いところから高いところに行く機会がありますか。そしたら高いところまであがってください。なぜなら高いところまであがるとほかの人のためにもっと奉仕がたくさんできるからです。”つまり自分の損得(そんとく)をはかって、自分の利益と貪欲、高慢のために生きる人ではなく、高い地位や、成功、お金をもうけること、勉強をして、学位を取ることも、助けが必要な人を助けるためにしなさいという意味で言われたと思います。

いつか紹介したことがあります、同じ時代ノーベル賞を受賞したふたりがいました。1950年アルバートシュバイチャは【ノーベル平和賞】をもらい、フランス作家であるアルベルトカミュは【ノーベル文学賞】をもらいました。シュバイチャはその受賞金と財産をあわせてアフリカの難治の病気の患者たちのために病室を建て上げてこんにちまで多くの人々がその病室で癒されました。しかしカミュはパリの近くに別荘を作って週末には自分の快楽を楽しみました。しかしカミュは日曜日の朝の礼拝の時間に愛人と一緒にその別荘にむかう途中交通事故にあって死を迎えてしまいました。

世界の鋼鉄王と言われたカーネギーは“お金を残して死ぬことは恥だ。すべてを神様と隣人のために全部使って死ぬべきだ。”と言いました。正しいことだと思います。彼が一生涯良いことのために使ったお金は約3百億円くらいほどだったそうです。

私たちは子供たちに将来なにかを残してやろうと恋々(れんれん)としているのではありませんか。しかし、忘れないでください。子供に財産を残してやると子供も家門も滅びてしまいます。ですからまことに子供を愛するなら善をたくさん行ってください。かわいそうな人々をたくさん助けてあげてください。かならずまいた分だけ刈り入れると信じます。みなさんは今日何をまいて、何を待っていますか。

1839年、アメリカで生まれたジョンロックペラーさんは子供のころあまりにも貧しい生活をしたため、彼はおさないときにこのような決心をしたそうです。‘私はこの世界で一番の金持ちになってやろう。’それでこどものころからお金を稼ぐのに夢中になって生活しました。そしてついに33歳の若いときに [スタンダード]石油会社の社長になり、若いときに百万長者になりました。そして43歳のときは、アメリカでは始めての大規模のトラストを形成して世界一番の財閥企業の総帥になりました。そして10年後である53歳には世界に一人しかいない億万長者になりました。ロックペラーは彼の願いとおりに世

界一の金持ちになりました。しかし彼はここで満足せずひたすらお金をもうけるのに忙しくする日々でした。そうしているうちに彼は不治の病にかかってしまいます。髪の毛は全部抜け、不眠症で眠れない夜を過ごし続けました。食べ物も消化ができず、一日中食べるものは、たった牛乳一杯といくつかのビスケットが全部でした。彼の主治医はロックペラーの受命は1年以内だと言われるくらいでした。いままでお金をもうけるのに血眼(ちまなこ)になっていたのに、彼には敵も多かったです。つまり、彼が死ぬことを首を長くして待っていた人もそれほど、多かったということです。

彼は死を目の前にして自分の人生を整理しながら、生まれて初めて自ら神様の御言葉である聖書を開いて読み始めました。そのなかで、決定的に自分の生涯においてなにが間違いだったのか悟られる聖句がありました。彼の人生を180度返った聖句が今日の本文の御言葉です。

“与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々は量りをよくして、押しつけ、揺すりいれ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返してもらうからです。”

この御言葉をとおしてロックペラーはいままで自分がわしづかみで生きてきて、手を開いて分け与えることを知らなかったことに気づかされました。集めるには、今までは必死で集めたのだが、おそかけの自分の生涯を整理し、精算(せいさん)する心境の中で開いた御言葉を通して彼は悔い改めつつ、手を開き始めました。そして助けが必要なところに、貧しい人々に与え始めました。彼は多くの人々が神様の愛を知るように自分の財産の一部を教会に献金して、たてられた教会がニュヨークの名所である美しい教会[リバーサイドチャーチ]です。社会的にもあまり教育を受けられてない人々に学ぶ機会を多く与えるために彼の寄付によってたてられた大学がこんにち名門の[シカゴ大学]です。

そして1931年には慈善事業を体系的にするために[ロックペラー財団]をつくって彼の全財産を貧しい人々のために寄付する本当に意味ある働きに彼の最後の人生を費やしました。彼が手を開いている間、驚きの奇跡が起こりました。まず、彼の心に平安が訪れました。眠れなかった夜がかわって、眠れるようになりました。食欲も戻り、健康も徐々に回復してきました。確かに医者は彼が54歳を越えないだろうと診断されたのに、彼はどのくらいまで生きたのかご存知ですか。98歳まで健康に長生きすることができたのです。一生涯、彼が慈善事業にささげたお金だけで5億ドルを越えるんだそうです。そして、彼の子供たちもそのようなお父さんの姿を見習って、たくさんのお金をまずしい隣人のために使ったそうです。“寄るべのない者に施しをするのは、主に貸すことだ。主がその善行に報いてくださる。”(箴言19:17)

愛する信徒のみなさん！私たちの神様は真実な方です。神様はどんな形でも、だれをとおしてでもかならず分け与えたことに忘れず報いてくださいます。私たちの神様はけっして借りる方ではありません。私たちが与える人生を送るとき神様はもっとよいもので報いてくださると信じます。みなさんにあるもので何でも与えるクリスチャンになって下さい。キリスト者と言われるクリスチャンはみんなイエスキリストがなされたように似て行く者たちです。

覚えて下さい。今自分が所有しているすべてがただ神様からしばらくの間預けられた主のものであります。ですから、すべて自分が所有しているのが本当は自分のことではありません。むしろ与えたことが自分のことになります。神様が与えたその手とその分を覚えて下さってさらに与えて下さるからです。自分が持て置いているまま、この世を去ると、所有していたすべてのものは結局神様が預けて下さったのにもかかわらず使わず、ただ浪費してしまったことになります。そして神様の御前でその結果に対する責任が問われるでしょう。十字架につけられる前に信じ、従っている弟子たちに残るところなくすべての愛を示されたイエス様のように、みなさんが持っているキリストの愛を惜しみなく与えてください。

みなさんが持っているものを、親切を、暖かい言葉を、みなさんの祈りを与える者になって下さい。何よりも我々が知り、持っているこのイエスキリストの救いの愛の福音を分け与える者になって下さい。いつ与えられたこの地上での人生が終わるかだれもわかりませんが、生きておられる主の御前に立った時は後悔しても追いつかないのです。

まもなく、今年の夏の時も韓国からやアメリカから宣教チームたちがわざわざうちのクリスチャンプレイズチャーチに来てこの小牧の地の救いのため祈り、伝道し、仕えるために来てくださいます。来る方々にも神の日本の信仰の家族として暖かく向かえ、みなさんが持っているキリストの愛を惜しみなく表し、与えて下さるまことのクリスチャンの姿を見せて下さるようお願いします。

主は私たちが与える者になることを願っておられます。与える人生が幸いです。神様は与える人生と信仰となって豊かな祝福を受けるようにと願っておられます。与える人が与えられます。自分のものを分け与えることにより神様からはさらに多くのものを与えられ豊かにされる祝福が私たちと教会の上にありますよう主イエスキリストの御名によって祝福します。

アーメン！